

(市長記者会見資料)

平成29年6月21日
京 都 市

産業観光局観光MICE推進室
TEL：746-2255

～観光消費額1兆円の目標を4年前倒しで達成～

質の向上の取組が実を結んでいます。

「平成28年 京都観光総合調査」について

この度、京都観光における観光客数や観光客の満足度、外国人観光客の動向等を把握することを目的に実施している「京都観光総合調査」について、平成28年1月から12月までの調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

平成28年の調査結果では、観光消費額が1兆862億円（前年比11.9%増）となり、2020年の目標を4年前倒しで達成し、日本人観光客の一人当たり観光消費単価についても、宿泊代、飲食費、買物代が伸び、約2,500円増加しました。

また、日本人宿泊客数、外国人宿泊客数が共に増加し、宿泊客数が過去最高の1,415万人（前年比3.9%増）を記録しました。

（※無許可民泊施設での宿泊客数は含まれていません。）

その他の調査結果の概要については、添付資料を御覧ください。

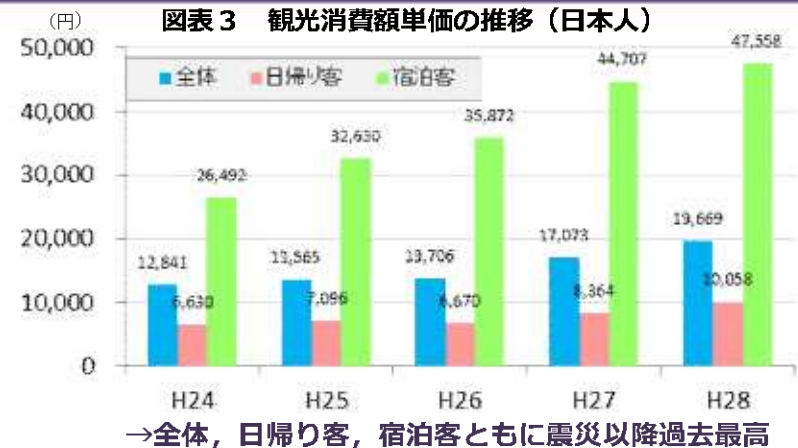
平成28年京都観光総合調査結果【概要】

「質の向上」の取組が実を結び、特に「消費」・「宿泊」・「歴史・伝統文化」が成長

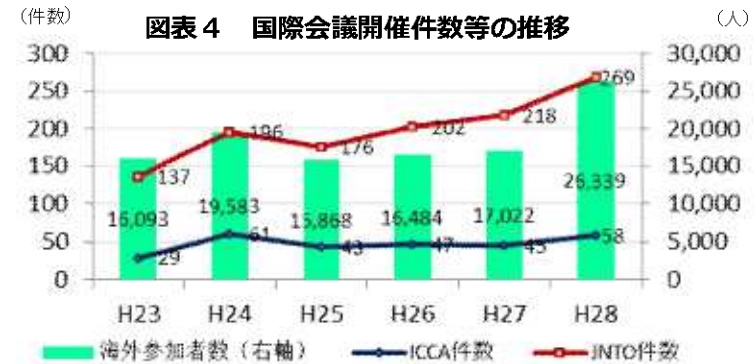
1 質

(1) 消費額、消費単価は増加、過去最高

- 観光消費額1兆862億円（11.9%増）、過去最高 → 2020年の目標を4年前倒して達成 (P.6)
- 消費単価も増加。特に、宿泊・買物・飲食が増加 → 過去最高の消費単価
H27 17,073円 → H28 19,669円（2,596円増） (P.6)
- 国際会議開催件数が過去最高の開催件数（京都文化交流コンベンションビューロー「2016京都開催の国際会議」より6月14日付け広報発表済）



→特に、宿泊代、買物代、飲食費が増加



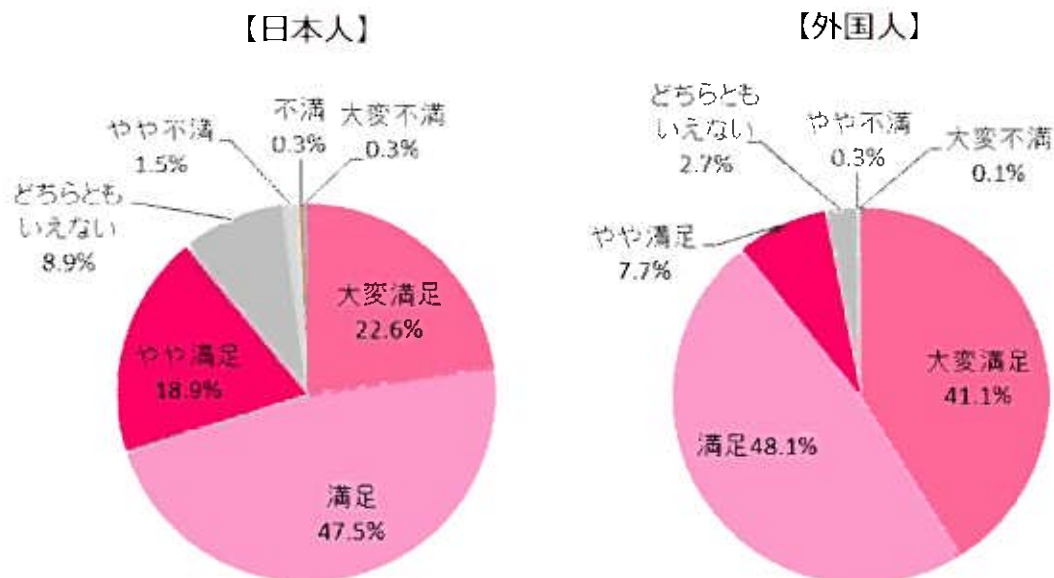
**(2) 満足度は引き続き高い水準，感動度・おもてなしを感じた割合は増加，
混雑に対する残念度 日本人は微増**

- 満足度（大変満足～やや満足）は，日本人観光客(89.0%)，外国人観光客(96.9%)ともに高い水準を維持 (P.39,43)
- 感動度（外国人）は，H27 59.4%→H28 80.8% (P.45)
- 日本人の京都のおもてなしを感じた回答割合(大変そう思う～ややそう思う) は，H27 42.7%→H28 50.4% (P.42)
- 公共交通機関に対する残念度が増（日本人 H27 8.5%→H28 12.3%，外国人6.4%→9.5%） (P.40,44)
- 混雑の残念度は日本人が微増（H27 13.8%→H28 15.0%）したが，外国人は微減（6.4% → 5.9%） (P.40,44)

(3) 歴史，伝統文化への評価が増加

- 伝統・伝統文化の外国人の来訪動機（H27 46.0% → H28 53.4%）と感動度（11.7% →14.1%）が増加 (P.45,52)

図表5 日本人及び外国人観光客の満足度の割合



図表6 外国人観光客の来訪動機「伝統文化鑑賞」の回答割合の推移



2 量

(1) 宿泊客，宿泊比率は増加，過去最高

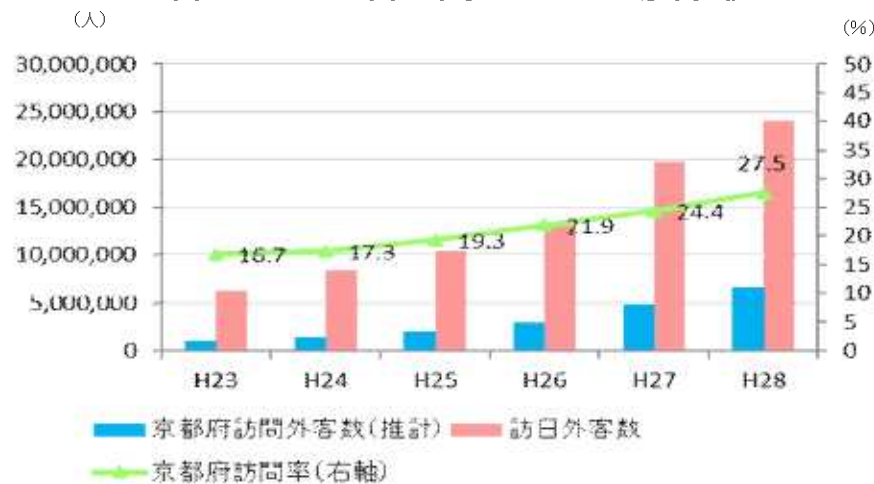
- 宿泊客数 1,415万人(無許可民泊施設での宿泊者数含まず)→過去最高。対前年比3.9%増 (H27 1,362万人から53万人増) (P.3)
- 外国人宿泊客数 318万人(無許可民泊施設での宿泊者数含まず)→過去最高。対前年比0.6%増 (H27 316万人から2万人増) (P.4)
- 宿泊比率の増加 (H27 24.0%→H28 25.6%) (無許可民泊施設での宿泊者数含まず) (P.12)
- 無許可民泊施設であるため捕捉できない宿泊者数の増
 - 無許可民泊宿泊者数は約110万人程度と推計
 - 外国人のAirbnb-マンション宿泊回答率 14.0% ※H28 初調査項目 (P.51)
- 稼働率は高止まり (H27 89.3%→ H28 89.1%) ※出典：京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー「外国人宿泊状況調査」
- 外国人「京都に泊まりたいけど泊まれない」割合 (15.9%) (P.50)

(参考) 旅館業法に基づく許可施設の定員数は，平成28年度末時点で平成27年度末時点から，16.7%の増加。

(2) 修学旅行生数も前年から増加

- 修学旅行生数 (宿泊) 110.5万人 全国の対象生徒数が6.8万人減少する中，対前年比1.2万人，1.1%増 (P.5)

図表7 訪日外国人の京都府訪問率等の推移



→外国人観光客の京都府への訪問率は年々上昇している

図表8 H26～H28年 国・地域別宿泊客数及び対前年比増加率



(3) 観光客数は引き続き高い水準

- 5,522万人、3年連続5,500万人超え→内訳の推計から外国人日帰り客(+177万人)と日本人(+51万人)及び外国人(+2万人)宿泊客数が増加している。(無許可民泊施設での宿泊者数含まず)
- 一方、特に近郊からの日本人日帰り客が減少(▲392万人)していると考えられる。(P.12, 17)

図表9 観光客数等内訳推計 ※外国人観光客については、京都府訪問者=京都市訪問者とみなして推計

H27	日本人観光客	外国人観光客	計		H28	日本人観光客	外国人観光客	計
日帰り客	4,156万人	166万人	4,322万人	➔	日帰り客	3,764万人	343万人	4,107万人
宿泊客	1,046万人	316万人	1,362万人		宿泊客	1,097万人	318万人	1,415万人
合計	5,202万人	482万人	5,684万人		合計	4,861万人	661万人	5,522万人

※訪日外国人旅行者の京都府訪問者数推計 (訪日外客数×京都府訪問率)
 H27 1974万人×24.4%=482万人
 → H28 2404万人×27.5%=661万人 前年比37.1%増
 出典：JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人の消費動向調査」
 *日本への訪日外客数の増加率 21.8%

3 今後の取組

(1) 良質な宿泊施設の拡充と民泊適正化

- 宿泊施設拡充・誘致方針に基づいて、旅館ホテル等誘致・拡充窓口での継続的支援
- 観光客と市民の安心・安全及び市民生活との調和のため無許可民泊施設への対応強化、住宅宿泊事業法を踏まえての京都ルールの制定

(2) 「観光客の分散化」による観光客の満足度の向上

- 多様なエリアの奥深い魅力を発掘・発信し、市内全域への観光客の分散化と地域の活性化を目指す。各エリアにおいては、地域の意向を踏まえ、地元関係者、民間事業者や庁内関係者と連携しながら、プロジェクトチームの活用などにより強力に取組を推進。また、全庁を挙げて観光を振興する「京都市観光振興推進会議」に「**観光客分散化部会**」を設置し、各エリアの主体的な取組を支援

(3) 文化を基軸とした観光の取組を推進

- 「京都遺産・伝統文化・匠の技体験型ツアー拡充事業」等によって文化体験ツアー等の造成促進

近年の京都市の観光振興計画の変遷 ～量から質へ～

